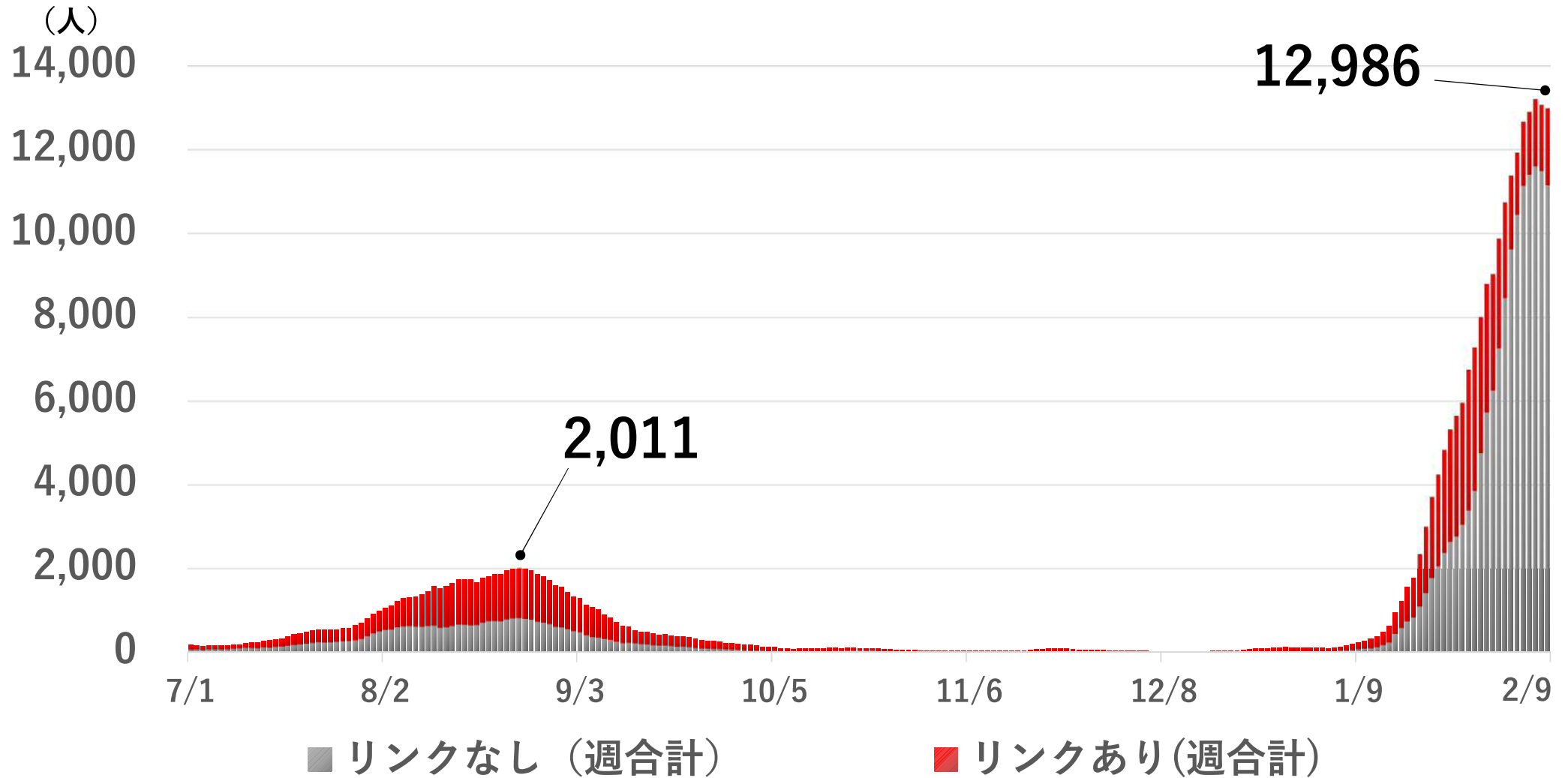


札幌市感染症対策本部会議

札幌市の感染状況について

令和4年2月10日
札幌市保健所

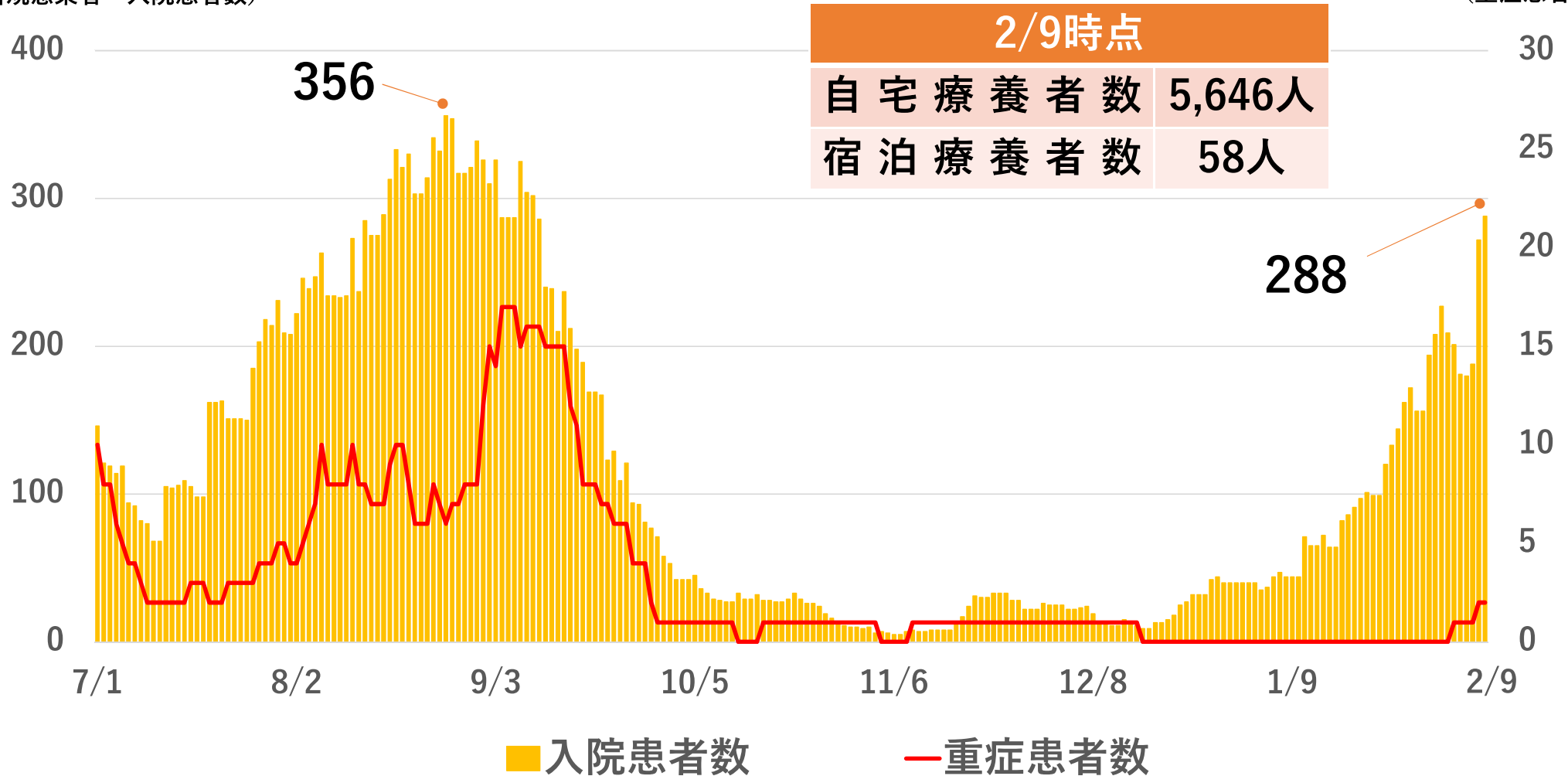
市内新規感染者数の推移



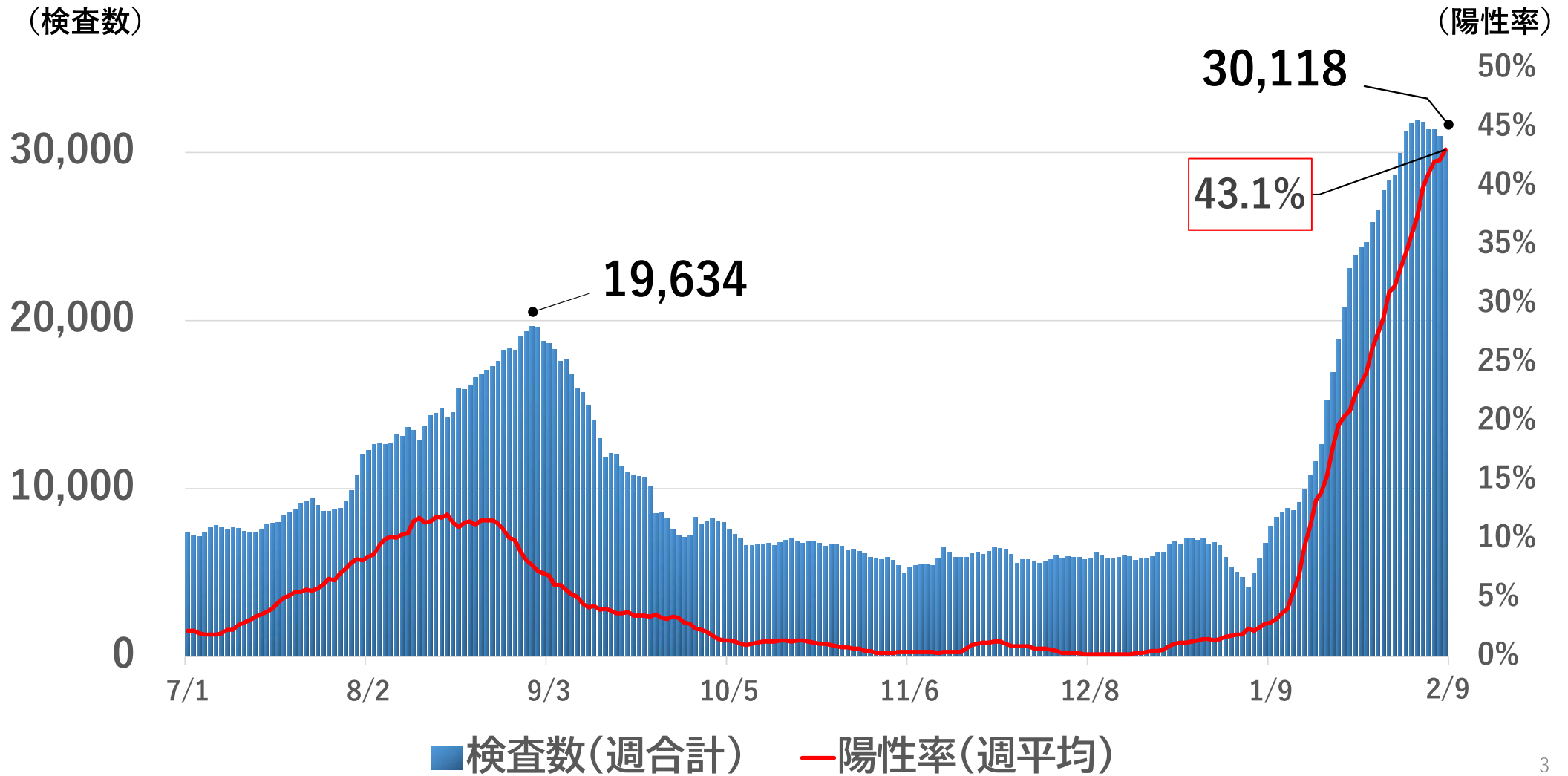
札幌市民の入院患者数・重症患者数の推移

(新規感染者・入院患者数)

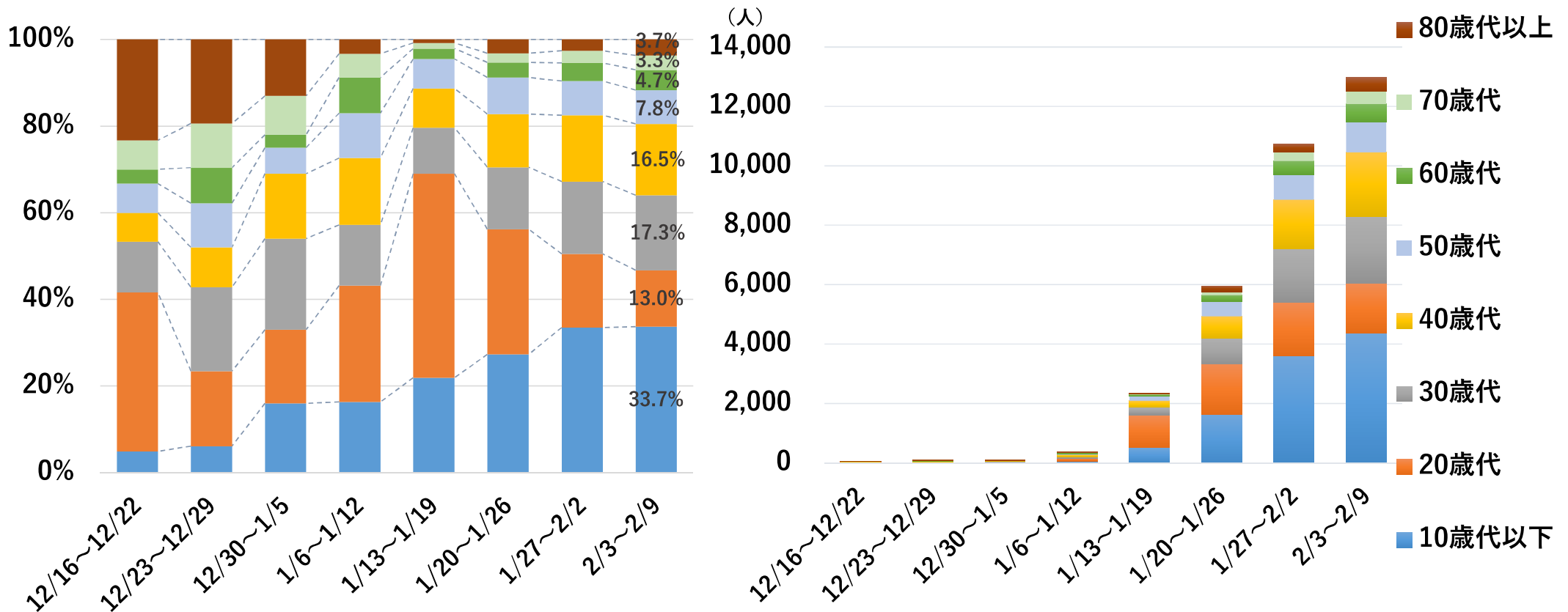
(重症患者数)



市内検査数と陽性率の推移

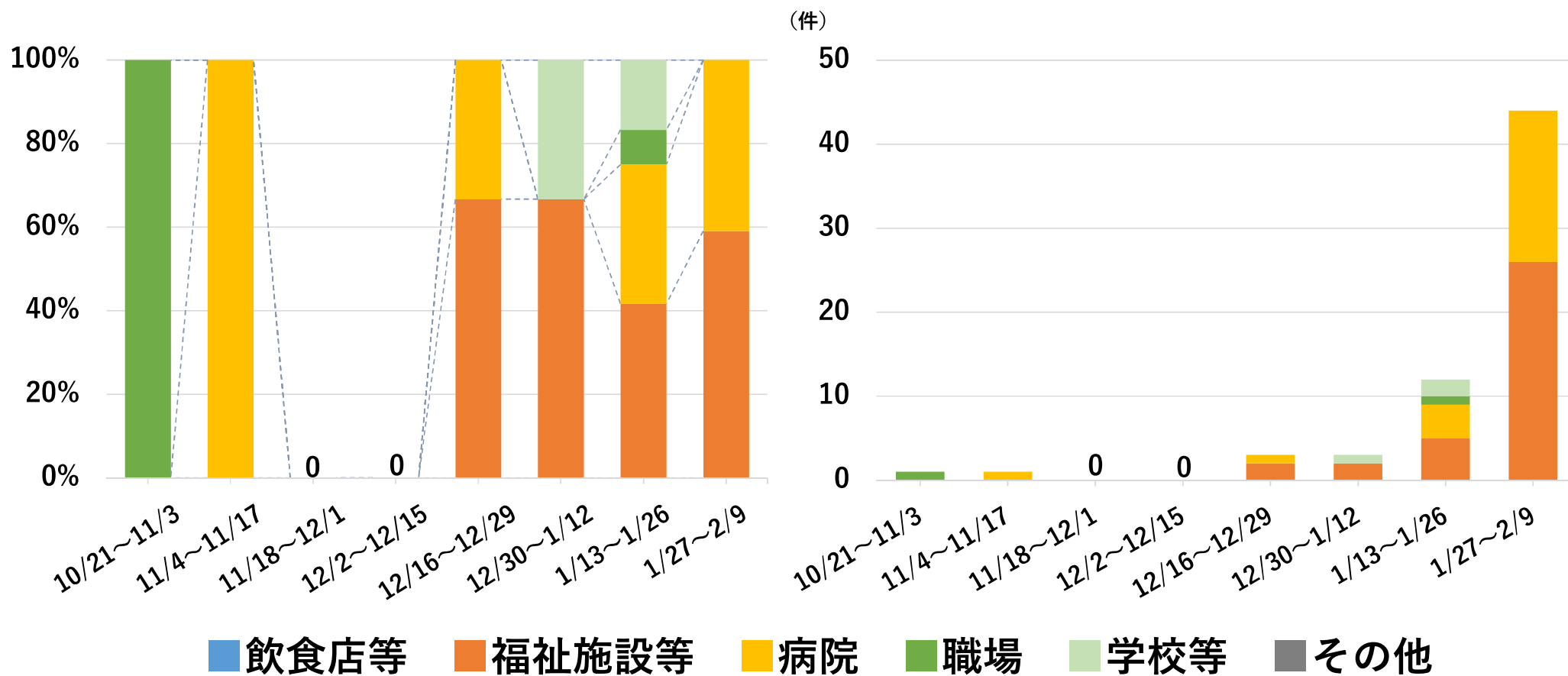


市内年齢別感染者数の割合



- 若年層の割合が高く、10歳代以下が3割を占める
(休園や学級閉鎖の影響により休まざるを得ない医療従事者の増)
- 高齢者の感染者数が増加している

市内集団感染事例



➤ 福祉施設や病院での集団感染が増加

病院、高齢者施設等での感染状況

○病院、高齢者施設等での感染状況の比較

	第4波 (5/1-5/31)	第6波 (1/9-2/8)
クラスター発生 施設数	45施設 (病院19、高・介26)	50施設 (病院20、高・介30)
陽性者発生施設数 (平均)	127施設 (病院54、高・介73)	117施設 (病院52、高・介65)
新規ピーク	5/13	—

- ✓ 現時点で第4波のピークを上回るクラスター数
- ✓ 新規感染者数のピーク後にクラスターピーク
- ✓ 子どもの感染拡大により保護者の就業困難多発(P4)
- ✓ ハイリスクの高齢者の感染者も急増(P4)

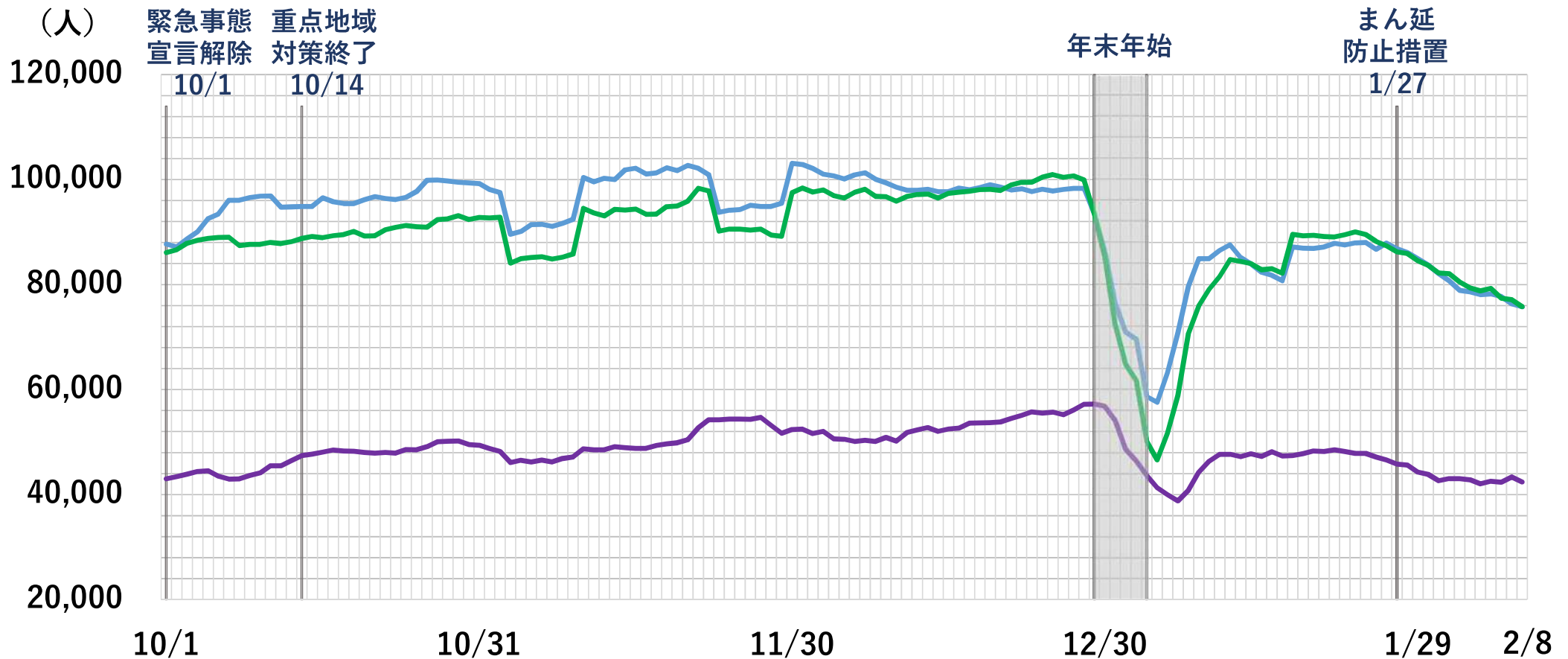
医療への負荷増大⇒
通常医療への影響も
危惧される局面

市内中心部の人出（午前9時、7日間平均）

札幌駅

大通駅

すすきの駅



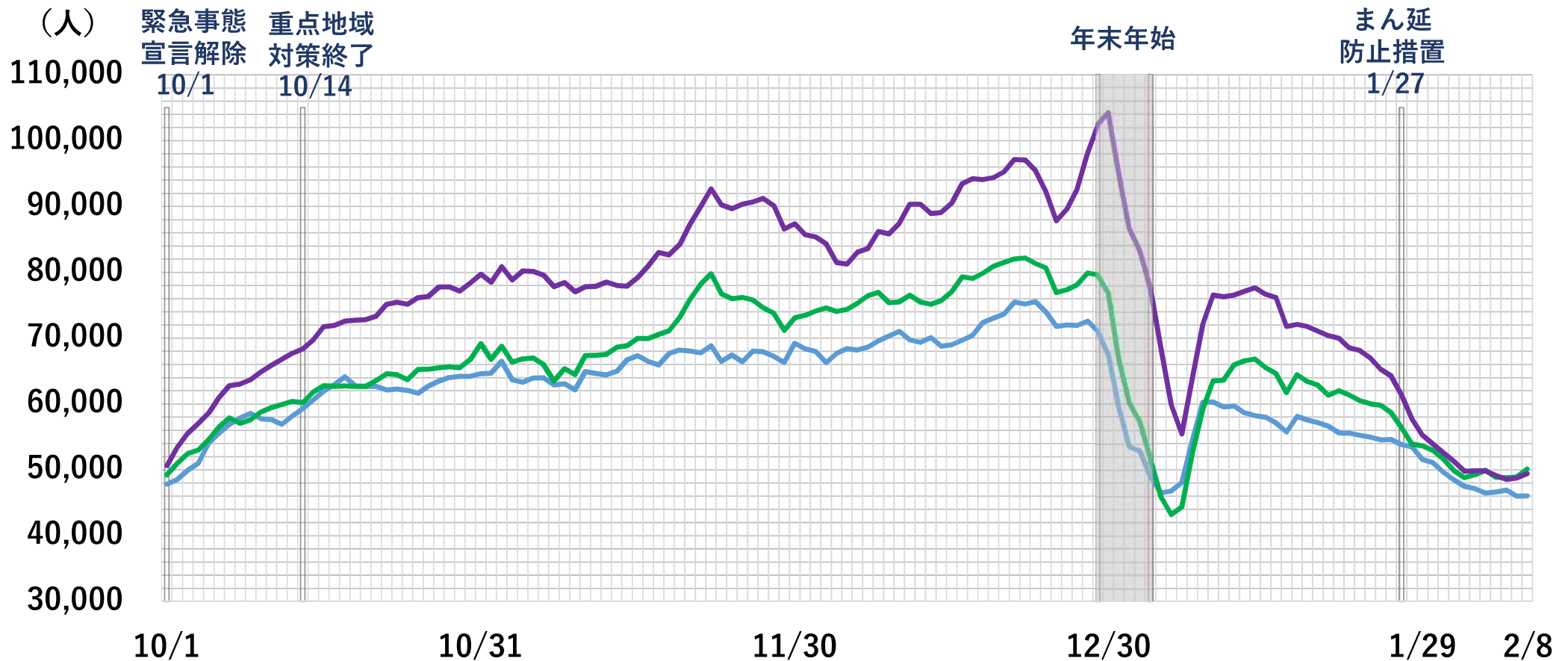
※Agoop社提供データを元に作成

市内中心部の人出（午後8時、7日間平均）

—札幌駅

—大通駅

—すすきの駅



※Agoop社提供データを元に作成

入院受入病床の状況

令和4年2月10日
保健福祉局保健所

➤ 市内の感染状況は、感染が拡大し、新規陽性患者数が高止まりした危機的な局面となっており、入院患者数も急増し、予断を許さない状況

	10月8日	1月14日	1月26日	2月9日
① 確保病床数【 現在フェーズ2 】	489	444 【フェーズ3】 622	515 【フェーズ3】 622	524(+9) 【フェーズ3】 627
② 高齢者（要介護）受入可能病床数	—	—	115	135（※）
③ 入院患者数（市外患者含む）	34	67	140	300
④ 入院患者数：高齢者（要介護）	—	—	<u>33</u>	<u>129</u>
⑤ 確保病床使用率（③÷①）	7.0%	15.1%	27.2%	57.3%
⑥ 高齢者病床使用率（④÷②）	—	—	<u>28.7%</u>	<u>95.6%</u>

※働きかけにより20床増加

中和抗体薬（点滴薬）・経口薬の治療実績

令和4年2月10日
保健福祉局保健所

（1）中和抗体薬（ゼビュディ）の治療実績

	1月24日	2月7日
入院受入医療機関の30病院（39病院のうち <u>36病院登録済み</u> ）	80	297 (+217)

※ オミクロン株への対応として変異株にも効果のあるゼビュディの活用体制の強化を図っている

（2）抗体カクテル療法（ロナプリーブ）の治療実績

	1月24日	2月7日
入院受入医療機関の37病院（39病院中）を含む 38か所の医療機関など	515	515

※オミクロン株に対しては、中和活性が低下することから投与が推奨されていない（厚労省）

（1） + （2） 中和抗体薬（点滴薬）の治療実績 合計 812人 (+217)

（3） 経口薬（ラゲブリオ）の治療実績 合計 354人 (+336)

	1月24日	2月7日
入院受入医療機関の20病院（39病院のうち <u>37病院登録済み</u> ）を含む医療機関など	18	354 (+336)

入院患者の重症度ごとの年代別割合

令和4年2月10日
保健福祉局保健所

1/21時点（17日前）※第6波初期

無症状の年代別割合

10歳未満	0	0.0%	0.0%
10代	0	0.0%	
20代	0	0.0%	
30代	0	0.0%	
40代	0	0.0%	0.0%
50代	0	0.0%	
60代	0	0.0%	
70代	0	0.0%	0.0%
80歳以上	0	0.0%	
合計	0	0.0%	

軽症の年代別割合

10歳未満	6	5.5%	46.8%
10代	8	7.3%	
20代	23	21.1%	
30代	14	12.8%	
40代	11	10.1%	26.6%
50代	8	7.3%	
60代	10	9.2%	
70代	12	11.0%	26.6%
80歳以上	17	15.6%	
合計	109	100.0%	

中等症の年代別割合

10歳未満	0	0.0%	0.0%
10代	0	0.0%	
20代	0	0.0%	
30代	0	0.0%	
40代	0	0.0%	50.0%
50代	1	10.0%	
60代	4	40.0%	
70代	1	10.0%	50.0%
80歳以上	4	40.0%	
合計	10	100.0%	

重症の年代別割合

10歳未満	0	0.0%	0.0%
10代	0	0.0%	
20代	0	0.0%	
30代	0	0.0%	
40代	0	0.0%	0.0%
50代	0	0.0%	
60代	0	0.0%	
70代	0	0.0%	0.0%
80歳以上	0	0.0%	
合計	0	0.0%	

全体の年代別割合

10歳未満	6	5.0%	42.9%
10代	8	6.7%	
20代	23	19.3%	
30代	14	11.8%	
40代	11	9.2%	28.6%
50代	9	7.6%	
60代	14	11.8%	
70代	13	10.9%	28.6%
80歳以上	21	17.6%	
合計	119	100.0%	

2/7時点

無症状の年代別割合

10歳未満	0	0.0%	0.0%
10代	0	0.0%	
20代	0	0.0%	
30代	0	0.0%	
40代	0	0.0%	20.0%
50代	0	0.0%	
60代	1	20.0%	
70代	4	80.0%	80.0%
80歳以上	0	0.0%	
合計	5	100.0%	

軽症の年代別割合

10歳未満	7	3.7%	14.9%
10代	3	1.6%	
20代	6	3.2%	
30代	12	6.4%	
40代	20	10.6%	29.8%
50代	10	5.3%	
60代	26	13.8%	
70代	35	18.6%	55.3%
80歳以上	69	36.7%	
合計	188	100.0%	

中等症の年代別割合

10歳未満	0	0.0%	2.4%
10代	0	0.0%	
20代	1	1.2%	
30代	1	1.2%	
40代	3	3.6%	20.2%
50代	6	7.1%	
60代	8	9.5%	
70代	20	23.8%	77.4%
80歳以上	45	53.6%	
合計	84	100.0%	

重症の年代別割合

10歳未満	0	0.0%	0.0%
10代	0	0.0%	
20代	0	0.0%	
30代	0	0.0%	
40代	0	0.0%	50.0%
50代	1	50.0%	
60代	0	0.0%	
70代	1	50.0%	50.0%
80歳以上	0	0.0%	
合計	2	100.0%	

全体の年代別割合

10歳未満	7	2.5%	10.8%
10代	3	1.1%	
20代	7	2.5%	
30代	13	4.7%	
40代	23	8.2%	26.9%
50代	17	6.1%	
60代	35	12.5%	
70代	60	21.5%	62.4%
80歳以上	114	40.9%	
合計	279	100.0%	

入院受入医療機関における従事者の実態アンケートの実施

令和4年2月10日
保健福祉局保健所

- オミクロン株の感染の急拡大により、医療従事者自身が感染し、陽性患者となるケースや、同居の家族の感染により濃厚接触者となるケースなど、医療従事者が欠勤せざるを得ないという事態が発生
- そのような中で、医療機関では、出勤時の自院検査による陰性確認の実施や、他病棟からの応援体制などの人員確保策により、この事態に対応している状況

①従事者における陽性者・濃厚接触者の発生状況 ※44の入院受入医療機関のうち、回答が得られた27医療機関のアンケート結果（1月末に実施）

	回答数	具体的な職種
陽性者がいる	24/27(88.9%)	医師、看護師、理学療法士など
濃厚接触者で出勤困難者がいる	24/27(88.9%)	医師、看護師、介護士など
濃厚接触者だが検査を行い、出勤している	8/27(29.6%)	医師、看護師、薬剤師など

②従事者人員における病院の運営状況

	回答数
問題なし	6/27(22.2%)
やや厳しい	10/27(37.0%)
かなり厳しい	11/27(40.7%)

③寄せられた主な意見

- ・小中高校の感染拡大により子どもが濃厚接触者や休校・休園により育児のため欠勤をせざるを得ない状況
- ・陽性者、濃厚接触者が重なり、救急車受入停止、時間外受診を断らざるを得ないかなり厳しい状況
- ・医師、看護師で陽性者、濃厚接触者が出たため、入院受入を一部制限している。

医療提供体制の現状について

令和4年2月10日
保健福祉局保健所

- ① コロナ患者の入院受入医療機関において、**複数のクラスターが発生**しており、入院受入を制限せざるを得ない状況
- ② 保育園・幼稚園等で陽性者が発生したことにより、休園等となった結果、**子どもの世話のために休まざるを得ない**医療従事者が増えており、医療機関における人手不足が深刻化
- ③ 高齢者施設におけるクラスターの発生等により、**介護が必要な入院患者が増加**しており、入院受入医療機関の負荷が増大
- ④ **雪道等での転倒事故や発熱等の症状がある傷病者が増えており**、救急搬送困難事案が増加